

輸血によるアレルギー既往歴のある患者に 抗アレルギー薬の前投与なく輸血を行った事例

【今回の事例】

患者は血小板輸血によるアレルギー既往歴があり、抗アレルギー薬を前投与した上で血小板輸血を実施することとしていました。しかし、血小板輸血を依頼した医師が、このことを把握していなかったことから、前投薬の指示がされず、抗アレルギー薬が投与されないまま輸血が実施され、輸血開始後にアレルギー症状を発症しました。後日、アレルギーの既往歴のある患者に対し、抗アレルギー薬の前投薬なしに輸血を実施したとしてインシデント報告が上がりました。

*アレルギー症状の発症後、直ちに抗アレルギー薬が投与され患者の症状は軽快しました。



《抗アレルギー薬の前投薬の情報共有は・・・》

【事例から考えるポイント】

- 共有すべき情報を必要時に確認できる仕組みが重要
- 双方向性ダブルチェックや異なる場面でのチェック体制など、効果的な確認方法の検証・確立が重要

輸血療法部会では、輸血関連インシデント事例を解析、発信し、安全な輸血療法の発展に貢献します

長野県献血推進協議会 輸血療法部会

事務局 薬事管理課

026・235・7159

長野県赤十字血液センター 026・214・8194

Mail:yuketsu-ryouhou@kts.bbc.jrc.or.jp

当部会のホームページ：<https://www.pref.nagano.lg.jp/yakuji/kenko/iryo/iyakuhin/yuketsuryouhou.html>